

進行：本日はどうぞよろしくお願いいたします。早速ですが、清心幼稚園の園長である栗原千代子先生（以下栗原）は、幼児教育に携わって30年以上になるかと思います。まず、そのきっかけですが、小さいころから幼稚園の先生になりたかったのでしょうか。

栗原：いいえ。ぜんぜん違うんですよ。小学生のころは、ピアニストとか女医さんになりたいなあ、とっていたんです。

進行：えっ、そうなんですか！？ それはなぜですか。

栗原：音楽は、「人を楽しくするし気持ちよくなる」じゃない。

あとは「人を助けたい」って思っていたのよ。でも、それも簡単なことじゃなかったわね。

進行：では、なんで今のお仕事を。

栗原：



大学生のころかなあ。学生時代は、とにかくいろいろなことをやっていたの。だから、周りの友だちは「演奏するからちょっと来て」とか「スキーを教えに来てくれ」とか。本当は考古学が好きで専門に学ぶつもりだったのだけど、そう思われてなくて（笑）。別のことばかりに誘われていたんです。それから「人間とは何か」のような方面にも魅かれて行って・・・。今は幼稚園の免許も簡単に取れるけれど、あの頃一種免

許をとるのは結構大変で、大学もさらに1年かかるということが分かっていたんです。それで、また英会話なんかも初めたりして。そんな時に、小学生時代の恩師にある施設を紹介されたんです。「子どもに音楽を教えてほしい」という依頼だったんですけど、そこでの出来事が衝撃でしたね。ふだん生活している社会ではない世界でしたね。

進行：どんなことがあったんですか。

栗原：言葉では薄っぺらに聴こえますけど、そこでは、いわゆる恵まれない子どもたちが共同で生活していたんです。過去に犯罪を起こしていたり、両親がいなかったりと・・・。その子どもたちと一緒に合奏をつくりあげることになりました。いくつか別の施設を巡回することが決まって、みんなでがんばったんです。

進行：合奏は大変でしょう。それぞれが音を出して、まとめるには気持ちをひとつにしないとイケないですね。

栗原：奏でる音がいいとか悪いとかじゃないんですよ。あのステージで、みんなで演奏したことが自信につながるんです。「自分たちもできるんだ」という。社会に出ることの勇気になるんじゃないかと思うんです。あの時の子どもたちが、いま、どうしているか今も気になります。元気にやっているといいのだけれど・・・。弱者から見た視点や社会がその後の私の価値観を変えたと思います。

進行：では、その視点が幼稚園に必要と思われたのですか。

栗原：そういう側面はあったかもしれません。全体的に商業的で、大人のスタンスで物事

を進めるように先生主導で教えるとか、子どもの心に気がついていないとか。子どもがないがしろにされているように感じていました。「あの子の表情、笑顔の奥に何か影はないか」「子どもに申し訳ないことをしていないか」「表面だけで見ていないか」「内面的に内包した部分をみななければいけない」と。それで、子どものやりたいことができる場所・環境を実現したいと思ったのかもしれないですね。

進行：育った環境も影響していると思いますがいかがでしょう。家と幼稚園が同じでしたし。

栗原：夏休みなど、子どもたちと一緒に遊ぶこともありました。自分では良く分からないんですが、子どもが寄ってきちゃうんですね。

進行：天性みたいなものがあるんでしょうか。

栗原：子どもに好かれるというのは、そういうものがあると思います。子どもは敏感で、自分と遊んでくれそうな人を見分けます。

進行：子どもとかかわるためには重要な資質ですね。信頼関係にもかかわってきますね。

栗原：そう、信頼関係を築くことってなかなか難しいことですから。それは子どもに限らず、大人同士でもいえることですが。卒業後、都内の幼稚園で働いていたんですが、そこでは学ぶべきことがたくさんありました。しかし、なにしろ規模が大きい。ですから根底では疑問を感じていました。子どもが埋没したり、死角ができたりする可能性が高かったのです。ですから、一人ひとりの顔と名前が一致するぐらいがちょうどいいなと思ったんですね。と、なると今ぐらいの状況がいいと思います。そうでなければ、スタッフみんなで理解しあうことはできません。だいたい子どもの様子が分からないのに、信頼関係なんて作れないですから。

進行：今、話されたように「子ども」も「大人も」信頼関係を築くのは大変ですね。大人になると、お付き合いすることを遠慮する方も増えてきますよね。

栗原：大人というか、親との接点は必要なことです。誤解は生じがちですが、本当の信頼関係を築くには、苦慮していかなければならない時代なんだと思います。

進行：気をつけていることなどはありますか。

栗原：まずは相手の気持ちを受け入れることでしょうか。そのあとで、こちらの考えも伝えていく。心の内を聴きながら、ディスカッションできる関係を築くことだと思います。あとは時間とタイミングかしら。

進行：信頼が築けるようになればいいんですが、誤解が生じたときは、こじれたり、噂になったりします。幼稚園は特に噂に左右されがちな感じがしますが（笑）。

栗原：そうですね。ぜひ、自分の目を見て、聞いて、確かめて、情報を揃えてから判断すべきだと思います。流されるのではなく、自分で考えて欲しいです。そうでないと、後々「こんな幼稚園に入園させなければよかった…」なんてことになってしまいます。でも、逆に選んで決めた後は、しっかり3年間その園について行って欲しいですね。園を「選ぶ」ということはある意味で自己責任。分からないことや納得できないことがあるなら、相手（園）に聞くことが大事です。責任を放棄しないよ



うにしたいものです。

進行：幼稚園を選ぶことについては、親からすれば大変な労力と決断が必要です。「情報を集める」といっても、自分の知りたい事はなかなか聞けなかったりします。だから、他の人から聞いて「そうなんだ」なんて、思っちゃうこともありますね。こちらの場合でも「園バスや制服がないから手間がかかる」とか「お弁当だから大変」などの話を耳にします（笑）。

栗原：たとえば「お弁当をつくるのは大変」、そういう気持ちは分かります。ただ、その内容は子どもの視点ではなく、親の都合という印象が否めません。

進行：うーん、そうですね。ただ、給食のほうが栄養のバランスがいいという意見もあります。

栗原：そういうこともあるかもしれませんが。でも、お弁当の栄養バランスやいりどりとか、そういうことを考えることが、もう子育てなんです。やっぱり、子どもはみんな手作りお弁当が好きなんです。そして、そこに愛情を感じるんです。服装だって、すぐに泥んこあそびができた方がいいですし、寒暖に応じて、または子どもが着たいものを選ぶ、ひとつひとつが大切な要素なんです。同じ色や同じ形で一律にしまえば、個性のないものに染まってしまう。

進行：「面倒なことはちょっと・・・」という風潮があるのかもしれないですね。

栗原：今の時代は便利ですからね。おむつも紙おむつで、捨てれば済む。ラク志向に飛びついてしまいがちです。「子育てを一生懸命やろう！」という志向が薄れていきます。でも、一方ではご自宅で、お産婆さんと一緒にお産をする方もいらっしゃいます。

進行：好みが二極化してきているんですね。だから、こだわる方はとてもこだわる。そこまでこだわる意味はありますか。

栗原：あると思います。それはひとつに『親子のきずな』です。「これだけ育ててもらった」だから、「私もこうしてあげたい」というパッションになるんです。「困っているひとがいたら、じっとしてられない」とか、それぞれの親子関係で違うと思うけれども、こういう気持ちは続いて、受け継がれていくわけです。「小学校からは給食だから」といって「幼児のころから給食」ではないのです。「何をどのくらい食べたのかを知らない」とか、「いつ何をしているか分からない」なんてことは、その子どもの姿を見えなくしてしまいます。「わたしは・・・？」「ぼくは・・・？」って。よりどころや小さいころのいい思い出がなければ、大きくなっても、止まる木なんてありません。親に愛されればこそ、相手を受けとめることができ、友だちも愛せるようになるのです。

進行：なんだか、予想していた以上にいい話になってきましたねー（笑）。

栗原：また、親の中でも、恵まれているように見えているけれど、頭だけで考えている方がいらっしゃいます。その方の心が育っていないのです。ですから、子どもの気持ちやサインを受けとめられていないことがあります。子どもは訴えたくても、親には伝わらないので、訴えることを止めてしまいます。最近、このケースは少なくありません。親の前ではすごく大人びたいいい子になる。でも、幼稚園での子どもらし



い姿とは全く違います。子どもが親の好みに合わせるんです。子どもは、かしこい
ですから。

進行：その場合、親自身だけではなかなか気付けないのではないのでしょうか。そういった
意味でもお互いの信頼関係を築いていくことが大切になってきますね。この際なの
で、もう少し聞きますが、「清心は保育料が高い」という声も・・・。

栗原：そうですね。でも、高すぎるということはないと思いますよ。子ども（園児数）は
多くない。その割にスタッフは多い。それは、子ども一人ひとりに対する多面的な
アプローチ、子どもの持ち味を引き出すための環境を整えたいからです。もちろ
ん、スタッフの質は重要です。できれば、保育料だけを比べるのではなく、全体の
経費が内容に見合っているかどうかで、判断して欲しいと思います。ただ、群馬県
は、全国に比べて保護者負担が少ないほうですから、恵まれた環境かもしれません
ね。県政や市政も子育てを大きくバックアップしています。

進行：紙面や時間の都合もありますので、あといくつか質問して終わりにしたいと思いま
す。先生は3児の母でもあります。ぜひ、入園前の子育てについて何かアドバイスを。

栗原：ぜひ、子どもと一緒に遊んでください。スキンシップをとって。とにかく遊んでく
ださいね。もちろん、規則正しい生活は基本ですよ。温かいごはんを食べて、よく
寝る。夜更かしはしちゃいけませんよ～。

進行：では最後に、清心幼稚園のいいところって何でしょう。

栗原：「子どもも大人も一生の友だちに会える」ってこと！！

進行：最後にもうひとつ。いま、一番何がしたいですか？

栗原：イタリアに行きたい！！とにかく、なが～い休みが欲しいなあ（笑）。

進行：こちらのインタビューも長くなりました（笑）。本日はありがとうございました。

栗原：こちらこそ、ありがとう。おつかれさま。